

そなえあれば
うれいなし

西淀防災 Times

Vol. 3 令和5年 7月 20日発行 担当：近藤

『西淀防災 Times』Vol. 3 では、4月11日（火）実施の教員実働訓練でお答えいただいたアンケートの結果について取り上げます。昨年度の訓練よりも、より具体的に多くの的確なご意見をいただきました。

次回訓練に生かすことも大切ですが、事前に念頭に入れていただき、普段の行動にも役立ててください。

避難先について

- ・負傷者は千船病院がいいのでは。
- ・避難先の動き、工場が火災等で避難できないときはどこへ行けばいいのか決めておいたほうが良いのではないのか。
→ 避難先はひとつのほうが混乱しないのか。複数がよいのか。今後も慎重に検討していきます

避難方法と判断

小6の教室のドアを開けるのに加えて、西ホールの非常口のドアも開けたほうが良いのか迷った。音楽室等移動教室先で地震が起こった場合、児童と1階に降りて座位保持椅子からバギーに乗り換えて、というあたりで、できるのかどうか不安は感じる。

- 次号に避難経路等についてまとめたものを載せる予定ですが、今までに蓄積されたあなたの知識は間違いではありません。迷ったとき、やらないよりやったほうがよいと思ったことは、ぜひ実行してみてください。

教職員自身の物品は？避難体制・備蓄食等

今回、水は防災袋の代わりに運んだが、もし災害時は教員用として運ぶのか。運ぶのだったら、水を袋に入れていく作業に時間がかかり、避難の時にクラスに戻れなかったので、人員を増やした方が良いかもしれない。あと、大人の防災袋みたいな(非常食など)物は持っていつているのかな？と疑問に上がりました。

- ・備蓄を取りに行くときに、児童生徒分だけか教員も含むのかなども伝えた方がよい。実際に災害が起こったら混乱を招きそうと思った。
→ 大人用備蓄食・・・西淀工場避難後で津波の危険がなくなったら取りに行く予定です。
→ 教職員個々人の必要物品・・・避難開始の待機時間に各自取りに行く→時間がとれないこともあるので留意を。

日ごろからの備え

- ・1階南館の外側がコンクリートの幅が広がったことで、逃げやすくなってよかった。夏場になると、雑草が生い茂りやすくなるので、定期的に草刈りをするなどして、常に逃げやすい状態を保てるとうよいと思う。
- ・普段は安全な介助が求められるが、有事の際のために、1人で生徒を介助できる技術も必要だなと感じた。
- ・声を出し合い、息を合わせて取り組むことが大事である。息を合わせないと次の事故につながる危険性がある。
- ・空き時間の時はどこで授業をしているか把握しておく。
- ・子どもとバギーを分けて階段を昇るとなると、多くの人員が必要になるので、体重の軽い子どもはバギーごと運ぶなどの対応をしてもいいのでは。
- ・担架の使い方は、救護担当の先生方には事前にレクチャーしておくとうよいのでは？複数の人が使い方を知っていると、他の教員が質問した時にも対応できて周知しやすくなると思った。
- ・使用する物品の状態の確認をしておく。(係から渡された訓練用の車いすがパンクして動かしづらかった。)
- ・自分の立場を踏まえて、やるべきことを整理したい。

指揮と方法

・階段で上に上がっていく時に、上に指揮をとれる人が欲しい。上に上がった時にそのまま3階まで上がってしまう人もいて、どう動くか上にも指揮をとってくれる人が欲しいなと思いました。また、避難の際、教室を出てどのルートで行けばよいか迷うので、こっちから避難してくださいと誘導してくれる人が欲しいなと思いました。

・避難を開始してから、西淀工場に避難が完了するまでかなりの時間を要していたので、全体で指揮を取って動くよりも、点呼が完了した学年から先に避難し、完了した学年の教員がまた学校方面に戻って補助に入るような形式だと人員を確保できるのでは。(現実的かどうかは別として)

・本当に100%全員が揃ってからの出発が正しいのか疑問に思った。登る事にも時間がかかるので、どのタイミングで行くかを検討してはどうか。

・子どものけが人は、1次避難時にそのままにするのではなく、子どものバギー等で動かしたほうが良いのかも思ったりしました。(可能な限り)また、大人も車いすがあるので、利用できる時は利用しても良いかもしれないです。(廊下等が普通に通れると仮定して。)

さまざまな避難体制

独歩の児童生徒の歩く速さ考慮・避難行動の見直し等によるスピード感ある避難・状況に応じた避難パターンの想定(3パターン程度)・電柱などの障害物で移動に時間がかかる想定。負傷者も一緒に逃げる想定等々…。

他校の事例

防災頭巾を車いすにつける。移動用バギーがすぐに傍らにある環境にする。

東日本大震災時の津波浸水域の肢体不自由校などの実際の避難の情報などがあれば教えていただくと避難のイメージがつかみやすいのではないかと感じました。

→ これを機会に調べ、またお伝えできればと思います。

個人情報保護

児童生徒の車イス、バギーにネームプレートをつけているが、個人情報保護の観点でどうか。校外学習時には外すようにしているが、緊急時の避難時にはそのまま逃げることになる可能性が高い。隠せる工夫が必要ではないか。

医ケアと避難

医ケアの児童のマニュアルと連絡帳、吸引器等を持っていくのが慌てている中で忘れることもありそうだと感じた。マニュアルと実施記録用紙だけでも防災袋に入れられないかと感じた。

→ 検討していきます

その他キーワード

延長コード・防寒対策・名簿・複数人での行動・声かけ・伝令

(教員対象)防災研修について 8月3日(木)15:30-17:00

昨年度の津波・高潮をステーションの見学の記憶もまだ新しいかと思いますが、知識の再確認の意味も含めて、今年度は、大阪市立阿倍野防災センター(あべのタスカル)での研修を予定しています。煙など身近な危険をはじめとする防災に対する知識と技術を総合的な体験を通して学習出来る施設です。当日都合がつかなくても、別日でもぜひ見学に訪れてください。津波・高潮ステーションに行ったことがない方はそちらへもぜひです。

書籍のおすすめ

100円ショップ防災手帳 龍洪守人 / 著 幻冬舎

本書では停電や断水時のサバイバル術、避難所で過ごす際の基礎知識はもちろん、

放射線や生物兵器から身を守る方法など、戦争防災についても徹底的に解説。

100円ショップで買えるものや家にあるもので揃う防災グッズ、

災害に強い家の作り方や、非常用持ち出し袋のアレンジ法を紹介する。

防災グッズを買い揃えただけでは助からない! 災害が起こってからでは手遅れ!

